

2026年

かわむら小児科

公式 LINE



モ〜モ〜くらぶ



麻疹(はしか)の流行について

現在、国内外で麻疹患者の報告数が増加しており、東京都を中心とした関東圏で流行しています。ゴールデンウィークで全国に広がっていくのではないかと懸念しています。現在は10歳代の子が多いそうです。麻疹は空気感染(同じ室内や車両にいただけで感染する)で極めて感染力が強く、基本再生産数は15~20(患者一人かうつされる人の数)とされています。免疫を持たない人が感染者と接触すると、ほぼ確実に感染するため、ワクチンによる予防が極めて重要です。

麻疹は麻疹ウイルスで感染する病気で、最初発熱、咳、鼻水、のどの痛みから始まり3日間ぐらい続きます。この時に口の中の粘膜にコプリック斑と呼ばれる白い小さなぶつぶつができます。その後一時解熱し、その後再び発熱、全身に発疹が出てきます。ワクチンを受けていない乳幼児が感染すると肺炎や脳炎になって亡くなることもあります。

診断は、血液検査もありますが時間がかかるので、血液、咽頭ぬぐい液(鼻の奥を綿棒で擦って採取する粘液)、髄液、尿などに麻疹ウイルスや麻疹ウイルスの遺伝子が存在するかどうかを調べる検査が行われます(当院では保健所に調べてもらおうと思っています)。もっとも確定診断に適した検査とされています。

麻疹に対する薬は存在しないため、治療は発熱に対する解熱剤、喉の痛みに対する鎮痛剤などの薬物療法、高熱などによる脱水に対する点滴治療などの対処療法が主体となります。また、別の細菌感染による肺炎や中耳炎を合併した場合は抗菌薬の投与が行われ、重症化した場合は入院したうえで酸素投与などの呼吸管理が必要になるケースもあります。

「修飾麻疹」は、ワクチン接種歴のある患者にみられる軽症の麻疹を指します。発熱、症状、発疹はいずれも典型的麻疹より弱く、経過も非典型的となることが特徴です。ワクチン未接種例と比べて症状が目立ちにくいいため、臨床診断が遅れやすい点に留意が必要です。

解熱剤を上手に使おう

解熱剤の役割は体温を正常化することではなく、不快感を和らげて水分補給や睡眠を助けることにあります。

子どもは水分を失いやすく体も弱いため、脱水や体力の消耗を防ぐために解熱剤の適切な使用が推奨されます。睡眠がとれ、機嫌よく遊んでいれば無理に使う必要はありません。

1日3回まで、1回使ったら6時間は間をあけるようにしましょう。

アセトアミノフェンの効果

解熱の効果	1~2℃
効果の開始時間	1時間以内
効果のピーク	3~4時間
効果の持続時間	4~6時間

(こまさん)

.....感染症情報(5月1日現在).....

- ★インフルエンザB型、新型コロナは時折まだ見られます
- ★アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルス、RSウイルスというかぜのウイルスが流行しています。
- ★ノロウイルスによる胃腸炎も一部の園などで出ています。

おしくら・まんじゅう



作:かがくい ひろし

いたずら紅白まんじゅうが、お友達とおしくらまんじゅう。

こんにやく、なっとう、ゆうれいまで登場します。おされたみんなはどうなるかな?

(あんこ)

5月30日(土) 休診

日本保育保健学会出席のため